

全国衛生学公衆衛生学教育協議会
65 周年記念ワークショップ 医学教育セミナー

日時： 2025 年 3 月 19 日（水）16:10-17:10

会場： ソニックシティホール 4F 国際会議場

（埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-7-5）

ハイブリッド開催(オンライン(Zoom)ID: 82280074240 / パスコード: 698037)

主催： 全国衛生学公衆衛生学教育協議会・第 95 回日本衛生学会学術総会

講師： 文部科学省 高等教育局 医学教育課

堀岡 伸彦 企画官

講演テーマ：「我が国の医学教育研究の課題と現状：働き方改革をこえて」

座長 中山 健夫（京都大学 教授）・中村 桂子（東京科学大学 教授）

趣旨： 医療現場では医師の働き方改革が進み、病院だけでなく、医学部の研究教育部門でも、医師や職員の働き方も急速に変化している。一方で、我が国の医学研究の強化・推進、医学教育の推進が喫緊の課題であり、働き方改革と医学研究・医学教育の推進を同時進行させるべく、環境整備と新たな取り組みが必要である。

一方、医師の初期臨床研修の制度が導入されてすでに 20 年がたち、改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムが令和 6 年より適用され、また医師法の改正によって共用試験が公的化されて医学生が臨床実習において行う医業の法的位置づけが明確化されるなど、医学教育も大きく変化している。総合的な診療能力を持つ医師の養成において、社会医学教育が担う役割はますます大きくなっている。

全国衛生学公衆衛生学教育協議会は、医育機関における衛生学公衆衛生学等の教育に関連した事項に関して協議することを目的とし、全国の医学部の衛生学公衆衛生学等の教授を会員として 1958 年に発足した。発足当時は 45 校であった医学部は、1980 年代に 81 校となり、2015 年以降に 2 校が加わり、現在 83 校の教授が参加する。医学部医学科の教育担当者だけでなく、大学院の教育担当者も会員である。さらに、国立保健医療科学院（旧国立公衆衛生院）が発足当初から会員であり、公衆衛生専門職大学院の教授が 2010 年代以降に加わっている。この間、各大学の教室は、国と地域の行政、産業医学、環境医学、環境科学、国際保健等に携わる、民間を含む組織の専門家と連携し、最先端の社会医学研究を牽引し、未来の社会医学人材の育成にあたりとともに、情報交換を行ってきた。

本医学教育セミナーでは、多角的な視点による医学教育研究の現状の分析と将来予測、高い水準の医学研究・医学教育を推進するために取り組むべきことなどについて、文部科学省 高等教育局 医学教育課 堀岡 伸彦 企画官からお話がいく。さらに、国際的に高い競争力を備えた医学研究の推進、総合的な診療能力を持つ医師の養成を支える医学教育の推進について、社会医学の視点をふまえて意見交換を行う。